

領の趣旨の具体化を有効に図っている条件を多く備えており、個に合った指導がしやすい。そのためには、一人一人の児童生徒の特性をよく把握し、それを指導に生かすことが大切である。

ア 個に応じた学習課題の設定
イ 学習コースの自由な選択

ウ 個に応じた学習時間や学習量の調整

エ 話し合い活動や集団思考の場を取り入れた多様な学習活動の展開

(2) 主体的な学習態度の育成

複式学級においては、異学年との学習になり、自学自習の時間が多くなるので、児童生徒の状況に応じた柔軟な指導に配慮しなければならぬ。

ア 意欲的・主体的に展開できるような指導過程の工夫

イ 目標や学習課題が一人一人に機能するような工夫

ウ 教科に応じたノートのとり方、学習の仕方の指導

エ 異学年による協力学習の仕方の指導と自学自習の習慣化

オ 直接指導に生きるような間接指導の工夫

(3) 自然環境を教材や体験学習に生かす工夫

へき地・小規模校においては、豊かな自然環境を生かして、教材を地域の中から見出し、豊かな学習活

動を展開するように創意工夫することが望まれる。

そのためには、各教科の指導の中で観察・調査・実験・栽培・飼育などの諸活動、製作、創作などの表現活動等、地域の豊かな自然環境を生かした多様な体験的な活動を取り入れることが大切である。

(4) 教育機器や資料の積極的な活用

児童生徒の興味・関心を高めたり、理解を助けたり、間接指導の効果を高めるために大きな役割を果たす視聴覚教材や教育機器を積極的に活用し、学習意欲の喚起を促すとともに学習の仕方を身につけるようにすることが大切である。

(5) 指導と評価の一体化を図る

小人数学級のよさは、一人一人の児童生徒に目が届きやすく、学習のつまづきをとらえて個に即した指導がしやすい点にある。したがって、一人一人の学習の結果やつまづきを個人カルテ等に記録したり、自己評価・相互評価を工夫したりして、指導に役立てるように配慮し、指導と評価の一体化を図ることが重要である。

十 体育、保健・安全、及び給食指導の充実

児童生徒の心身の調和のとれた発

達を図り、健康で安全な生活に必要な習慣や態度を育てるためには、学校の教育活動全体を通じて行われる体育に関する指導を一層充実させるとともに、家庭、地域社会との連携を図る必要がある。

そのため、体育指導については生涯スポーツと体力の向上を重視し、児童生徒が自ら進んで運動に親しむ能力や態度を身に付けることが大切である。また、保健・安全及び給食指導については、身近な生活における具体的な知識の理解や活動を通じて、自主的に健康で安全な生活を実践する能力や態度を育成することが大切である。

1 体育指導の充実

体育指導は、体育の授業を中核としながら、体育的な行事や運動部活動などとの関連を十分に図り、児童生徒が自ら進んで運動に取り組む、体力・運動能力を向上させることができるよう努める必要がある。

(1) 指導計画の作成

全体計画、体力づくり推進計画、部活動指導計画等については、学校の教育活動全体を通じて体育的な活動が適切かつ積極的に実践されるよう、改善・作成する。特に、中・高等学校の計画については、選択制授業を積極的に取り入れ、実践する。

(2) 運動の楽しさの体験

児童生徒の発達段階を考慮しながら、運動の特性に触れる楽しさや喜びを十分に味わわせるとともに、最善を尽くして運動に取り組む、技能の向上が図られるよう学習過程や学習の場を工夫する。

(3) 運動への主体的な取り組み

児童生徒が進んで運動に取り組むことができるよう、一人一人の発達段階や能力に応じた課題や活動の場を自ら選択できるようにするとともに、学びの様子や結果を評価できるような場を位置付け、学習と評価の一体化に努める。

(4) 体力・運動能力の向上

スポーツテスト等の結果に基づいた一人一人の運動メニューを作成するなど、課題に基づいた具体的な解決を図るとともに、その解決に向かって日常的に継続的に取り組むことができるよう、個人記録表や施設設備を積極的に活用する。

2 保健・安全指導の充実

保健・安全指導は、児童生徒の学校生活はもとより、生涯にわたって健康で安全な生活を実践するための基本的な能力や態度を育成することをねらいとし、児童生徒の発達段階や特質に応じて、各教科・道徳・特別活動等、学校の教育活動全体を通じて適切に推進する必要がある。そのため、次の領域において教職員が一丸となって取り組むこと